

想 OMOIBITO

生徒インタビュー

当時と今の事、教えてもらいました。



02

interview



猪狩 大樹さん

人に伝える。人を助ける。
そんな仕事につきたいです。

震災当時の経験

地震が起きた時は自宅の和室で勉強していました。父親に抱えられて外に出ましたが、母親がすぐに家から出てこなくて心配でした。また広野火力発電所から黒い煙が出ていて、とんでもないことが起きているのだと感じ、不安を覚えました。その後、原発事故の影響で5カ所の避難先を転々となりました。少しでも遠いところに避難しようと思い新潟県や埼玉県へ避難したこともあります。埼玉県は広野町の避難所だったこともあり、友達もいて物資なども届いたため、あまり不便はしませんでした。しかし、集団生活をしていたため、はしゃぐことができませんがままも言えませんでした。ストレスも溜まったので、兄弟での喧嘩も絶えなかったです。原発の話も落ち着き、小学校2年生の時にいわき市に移り、中学校2年生の時まで住んでいました。その後は広野町に戻ってきましたが、小学校の同級生の中には、いわき市に住み続けている人も多くいます。避難先での生活が長くなるとその土地の生活に慣れてしまい、新しい場所で今まで通り生活ができるか不安になって帰りたくないと感じるのだと思います。私も同じことが理由で、広野町に帰りたくないと思っていました。震災後は、双葉郡ではなくなったお店や施設があるのに対し、避難先は町が栄えていることも多いです。それを踏まえると、戻ってきてもらうだけの魅力が今の双葉郡にはないのが現状です。人が帰ってこないことについて寂しさはありますが、震災前に住んでいた人を呼び戻すためには、現状では難しいと思います。

学校でやっていること

探究活動では、Minecraftを使って震災当時の双葉郡をゲームの中に作る活動をしています。事故があった場所がきれいになったり、年々震災に関する話が少なくなったりするのを見て、震災の記憶が風化していくを感じました。人々が震災について忘れることのないように、原発事故の被害をMinecraftに残して、事故の記憶の継承をしたいと考えています。本来であれば、原爆ドームのように原発を震災と事故の象徴として残したいと思うのですが、そのためには問題が多く、残したい思いを国や電力会社に伝えるのも難しいです。実際には、原発事故があった場所は更地になる予定です。しかし、Minecraftの中であれば原発を残すことができます。現在は技術的な課題が多くあり、原発のレプリカを作った人に話を聞いたり、情報収集をしたりしています。ゲームを通して原発と周りの町を再現することで、原発事故についてこれからの子どもたちにも知ってもらおうきっかけになってほしいです。



気になる事を聞いてみました!

お話をするのが大好きです!



Q1 避難生活先で必要だったものなどはありますか?

埼玉県に避難した時は、1週間ほど学校にも通いましたが、友達はとても良くしてくれました。鍵盤ハーモニカやランドセルも貸してくれて、筆記用具類も物資として届いたので、不自由はあまりありませんでした。

Q2 将来どのような仕事につきたいですか?

高校卒業後は県外に進学し、カウンセラーや臨床心理士になりたいと思っています。自分自身、話をするのが好きで、そういったことができたら人を助けられる職業は何かと考えたときに、この仕事がいいと思いました。

Q3 双葉郡について伝えたいことはありますか?

被災地以外の人に対しては、双葉郡はまだ復興途中ですが、震災前に比べるとだいぶ明るくなって住める町になったということ。将来の子どもたちへは、震災前の風景や震災の記憶を伝えていきたいです。

Q4 探究活動を通して得たことはありますか?

私は広野町の出身だったので、広野町以外の双葉郡についてはあまり知りませんでした。しかし、探究活動を通して他の双葉郡についても調べて知ることができました。震災について、前よりも広い視点で見られるようになったと思います。

Q5 今後、双葉郡に必要なことはなんでしょうか?

お店や祭りなど、人が賑わう場所はどうしても震災以前より少なくなっていると思います。震災当時のことを伝えるだけでなく、避難した人たちが戻ってきてくれるようなまちづくりをしたいです。